

## 知っていることの全てを教える

尾竹 永子

2001年9月11日、ニューヨークの自宅。ワールド・トレード・センターが目の前で崩れた。その前年、91階にスタジオを得て仕事をしていた私は、自分を激しく責めた。1993年にも同ビルに1,000人以上の負傷者を出した爆破テロがあったのに、それを忘れてアシスタント達まで危険にさらしていた愚。

2011年3月11日、大地震と津波のニュース映像もニューヨークで見た。続く福島第一原発でのメルトダウンと水素爆発。安全な原発はありえないと知っていても、突きつけられた深刻さに唾然とした。反対意見を無視して、原発を作り続けた地震国の日本。私も友人たちも大きな悔いに苛さいなまれた。私は原爆について大学で教えているのに、原発については知る努力も教える努力も足りなかった。距離感きょりかんは悪を許す無関心の温床。私はその夏から6回、福島を訪ねた。無人となった景色に体を置いて悔いから学ぶ。写真を発表し、世界の人々の福島への距離感を少しでも変えようとした。

地球温暖化、山火事、パンデミックと強権主義。現代の天災は人災。社会悪、政治悪、マイノリティー攻撃が重なる。多くの学者たちが長く警告してきた災いの大きさを「想定外」と言う欺瞞きまん。これに抗うためにも、知力と想像力を育てたい。

さあ、この新年は深呼吸して、失ってきたものを真剣に考えよう。悔いを繰り返さないため、守りたいものを各々が決め、自分と違う意見の人にしっかり伝えよう。社会を変えようとする教育と意見交換が充分になれば、忘却と愚かなメディア扇動を許し、「民主主義」は知識を尊ばない単なる多数決に終わる。その危機感ゆえ、私は提言する。教員のみでなく全ての大人が、学校にとどまらず何処でも、若い人たちに思いきり向かいあおう。知っていることの全てを教える覚悟で対話しよう。対話が両者を鍛える。教える、学ぶ感動を全ての家庭、学校、職場、街角で生み出そう。今までどおりではいけない。最大の工夫をしよう。工夫はさらに感動を呼ぶ。感動は人の心を躍動させ絶望から救う。



### PROFILE

おたけいこ：アーティスト。1976年よりニューヨーク在住。Eiko & Komaとして自作自演の公演を続け、受賞多数。メトロポリタン美術館など各地でソロ公演と、福島で撮った写真と映像の展示。ウェスリアン大学、ニューヨーク大学、東京大学などで、大きな暴力の歴史と身体表現を教える。「災害とアート：東日本大震災からコロナ禍まで」をvimeoで配信中。今春ウィリアム・ジョンソンと共著の写真集「福島に行く」を出版予定。www.eikootake.orgにてアート活動を発信。